

## 【巻頭言】

## 新年のご挨拶

学友会 会長 錦 成郎(54回生)



新年あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、米価が高騰したと思ったら、その他の生活必需品もじわじわと高値になり、エンゲル係数が上がるばかりでした。少し前は日本人の主食がお米から離れたということで、お米の生産調整(減反政策)が行われたと記憶していますが、インバウンドが急増したあたりから、いきなり米不足に陥って米価が2倍から3倍にまで高騰するありさまでした。近年の日本の食料自給率は、カロリーベースで38%程度、生産額ベースでは60%台半ば程度と低い水準で推移しており、この背景には食生活の洋風化と多様化、農業生産者の減少と高齢化、農地の減少、そして畜産物などの食料品の輸入依存があり、具体的にはパンや肉料理、油脂類などの輸入食品の消費が増えたことが主な要因だそう

です。しかし、お米の自給率はほぼ100%(農林水産省)ですが、なぜ米不足が生じたのか理解に苦します。早く改善して欲しいものです。

ここで大学からのお知らせです。本学では開校100周年記念事業の一環として、大学院(修士)課程の新設を目指し申請書類の準備が進められています。社会人でも履修しやすい配慮も検討されているようなので、学友をはじめ興味のある先生方への広報をお願いできれば幸いです。

さて、学友会理事会の近況と要望です。昨年度まで企画委員長として長くご尽力いただいた出石弘伸先生が理事を退任され、新任理事として大卒の岩本大成先生に加わっていただきました。岩本先生の加入により大卒理事は4名となりました。この年代の先生方には、ぜひ若い会員が興味を示すような、参加してみたいと思える企画や、新卒者に近い視点で学友会の活性化の方略など積極的なご提案を期待しています。また、現在、活動の中心を担っている短大卒の理事は10名です。おそらく勤務先では中堅や管理職として、バリバリご活躍の先生方ばかりなので、上下に挟まれた年代として、多様な意見に晒されて問題点や課題を熟知される立場だと想像します。今後を見据えた学友会のあり方について、多角的な視点に立ったご意見をいただきたいと思っています。最後になりましたが、残るは大学賛助会員と年齢層が高めの専門学校卒業生が、主にまとめ役として理事会を運営しています。

学友会が社会貢献する組織であるためには、単なる「老人クラブ」にならないようアグレッシブに活動し続けることが大切だと考えます。これから時代を見据えた運営とは何かを考えつつ、必要な情報を得て活動に落とし込むことが必要です。これが「本会は会員相互の親睦を図り、並びに京都医療科学大学の発展を後援する」という目的を達成するための条件であると考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。最後になりましたが、良き一年となりますことを祈念して筆をおきます。

以上

---

\* 通巻258号 2026年1月10日発行(2026-No.1)より